

第3次八潮市環境基本計画（骨子案）

1. 計画の概要	3	6. 施策体系及び指標の関係性	8
2. 社会の動向	4	7. 計画の構成（案）	9
3. 計画策定の方向性	5	8. 目標値・指標の現状	10
4. 環境の問題	6	9. 温室効果ガス排出量の現状	11
5. 望ましい環境像	7	10. 温室効果ガス削減目標 ・ 再エネ導入目標	12

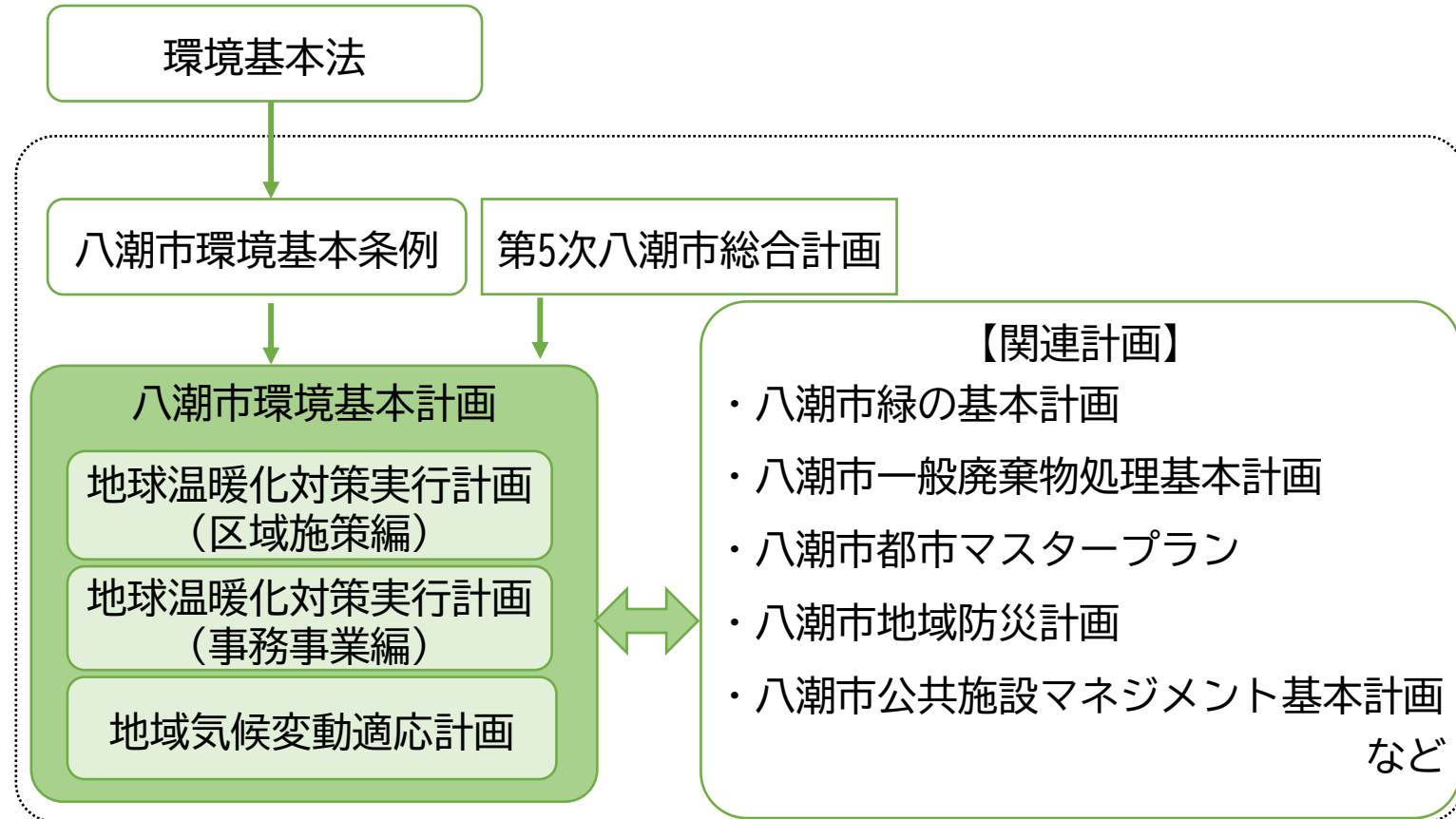
1. 計画の概要

(1) 計画策定の背景・目的

- 環境行政を取り巻く状況の変化に対応するため、望ましい環境像や環境目標、施策について見直しを行います。これにより、環境施策の総合的かつ計画的な推進を図ることを目的とします。

(2) 計画の位置付け

- 本計画では、地球温暖化対策実行計画（区域施策編）及び地球温暖化対策実行計画（事務事業編）、地域気候変動適応計画を内包します。



2. 社会の動向

● 地球環境

- ・パリ協定やSDGs等、地球規模で持続可能な社会への貢献が求められています。
- ・国は2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロ（カーボンニュートラル）の実現を宣言し、2030年度に46%減（2013年度比）の目標を表明しました。
- ・気候変動の影響の評価、被害の防止・軽減が喫緊の課題となっています。

● 自然環境

- ・都市化や自然と暮らしとの関わりの希薄化、外来生物や地球温暖化による影響等により、生物多様性の低下や洪水や渇水などの水問題が起きています。

● 生活環境

- ・公害関係法令の規制対象とならない近隣騒音も増加しており、多様な発生源への対応が求められています。

● 資源循環

- ・海洋プラスチックごみによる環境汚染が問題となり、3R+Renewableの促進やワンウェイプラスチックなどの資源循環に向けた取り組みをすることが求められています。
- ・従来の3Rの取組に加え、新たな資源の投入量や消費量を抑えつつ、資源・製品の価値を最大限生かす循環経済（サーキュラーエコノミー）が注目されています。
- ・食品ロス削減に向けて市民・事業者と協働して取り組む必要があります。

3. 計画策定の方向性

① 「SDGs（持続可能な開発目標）」及び「第五次環境基本計画」の考え方の反映

- SDGsの考え方を取り入れることで、国際目標の達成に資する計画とします。
- 国の「第五次環境基本計画」を踏まえて、経済・社会的課題の「同時解決」を目指す取組を検討します。

② 国の最新動向を盛り込んだ施策の検討

- 国の「地球温暖化対策計画」や「2050年カーボンニュートラル宣言」を踏まえた緩和策による温室効果ガス排出量の削減に加えて、「気候変動適応計画」に基づいた地域特性に見合った適応計画の策定、適応策の実施を検討します。

③ 関連計画との整合を図り、取組の実効性を確保










- 本計画は、「八潮市総合計画」に示す本市の将来都市像を環境面から実現をしていくための計画であるため、「八潮市総合計画」の6つの分野別将来目標における施策との整合を図ります。

4. 環境の課題

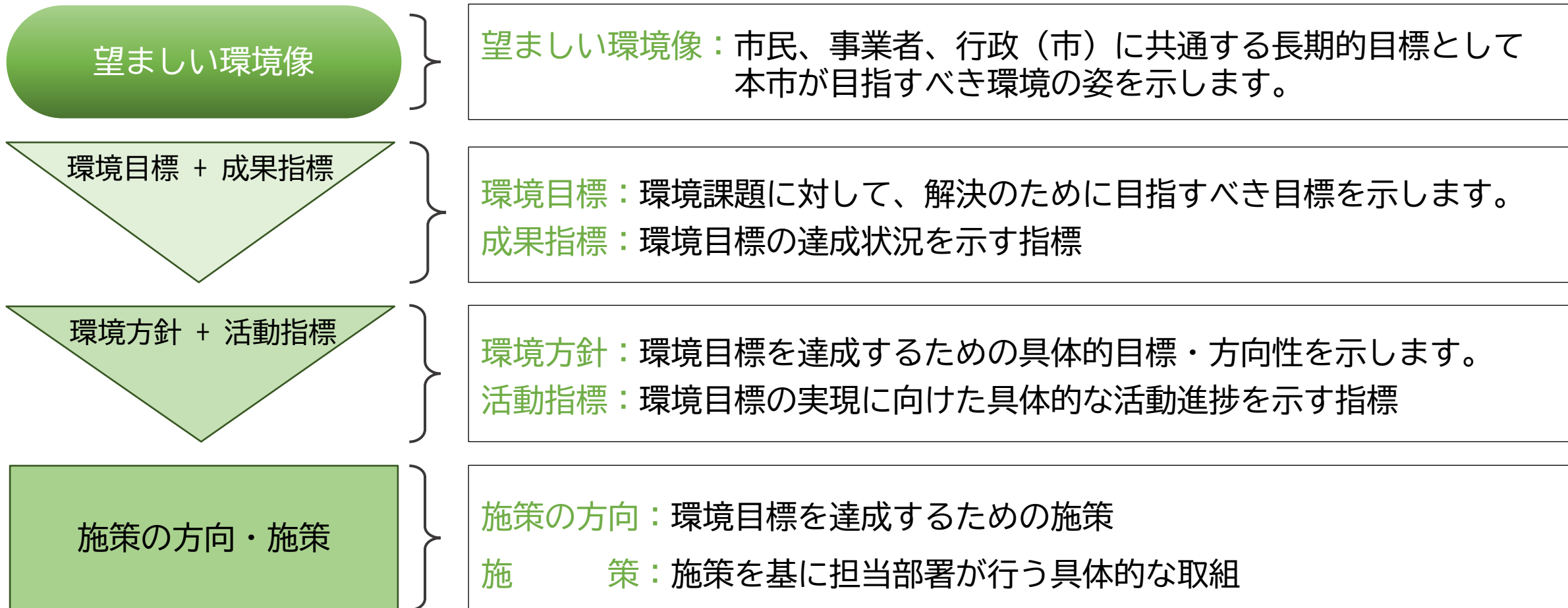
地球環境分野	<ul style="list-style-type: none">「ゼロカーボンシティ宣言」を踏まえた目標値と施策の設定を行い、実現に向けた取り組みを促進していくことが必要です。本市の温室効果ガス排出量は減少傾向にありますが、市域からの排出量の約4割を占める産業部門を中心に削減対策に取り組んでいくことが必要です。本市の再生可能エネルギーの導入は進んでおり、今後も市域における太陽光発電システムをはじめとする導入促進に向けて働きかけていくことが必要です。
自然環境分野	<ul style="list-style-type: none">本市の自然を特徴付ける水と緑を守るため、地域に合わせた保全を行い、適正な管理等を行うことが求められます。まちづくりについて、緑のある公園など、グリーンインフラの考え方を活用した持続可能で魅力のある地域づくりの検討が必要です。「30by30」等に向け、引き続き、生物多様性の保全、野生鳥獣の管理、侵略的外来生物の防除などの取組が必要です。
生活環境分野	<ul style="list-style-type: none">工事や工場からの騒音・振動・悪臭の苦情が多く、事業者に対する指導等、適切な対処を行っていくことが必要です。規制対象とならない騒音など、多様な発生源への対応を検討する必要があります。
資源循環分野	<ul style="list-style-type: none">本市のごみ搬入量は横ばいとなっており、一人1日当たりで見ると減少傾向にありますが、全国平均及び埼玉県平均を上回っているため、ごみの発生抑制と分別の徹底によるリサイクルの推進していくことが必要です。食品ロスやプラスチック資源循環といった新たな法令に対応した取組の検討が必要です。資源循環に関して、今後も市民・事業者と協力するとともに、5市1町で協働して取り組むことが必要です。
環境活動分野	<ul style="list-style-type: none">情報の入手手段も多様化していることから、幅広い世代に向けて環境情報を提供するため、電子媒体・SNSを活用し情報を発信するなど、環境活動団体の認知度向上及び若者世代を取り込む方策の再検討が必要です。環境教育や環境学習の機会を増やすとともに、幅広い世代に向けた情報提供を推進し、市民や子どもたちの環境意識の向上を図っていくことが必要です。

5. 望ましい環境像

【望ましい環境像】
水と緑にふれあえる、環境にやさしいまち八潮

	環境目標	関連するSDGs
地球環境分野	市・市民・事業者がともに連携し、ゼロカーボンシティが実現したまち	    
自然環境分野	きれいな水と豊かな緑に恵まれ、生きものとの触れ合いが多いまち	   
生活環境分野	安全、安心な生活環境で健康にいつまでも暮らせるまち	    
資源循環分野	資源消費と廃棄物発生を抑制し、持続的な資源利用が可能なまち	    
環境活動分野	みんなが環境への意識を高め、環境活動に取り組むまち	  

6. 施策体系及び指標の関係性



7. 計画の構成（案）

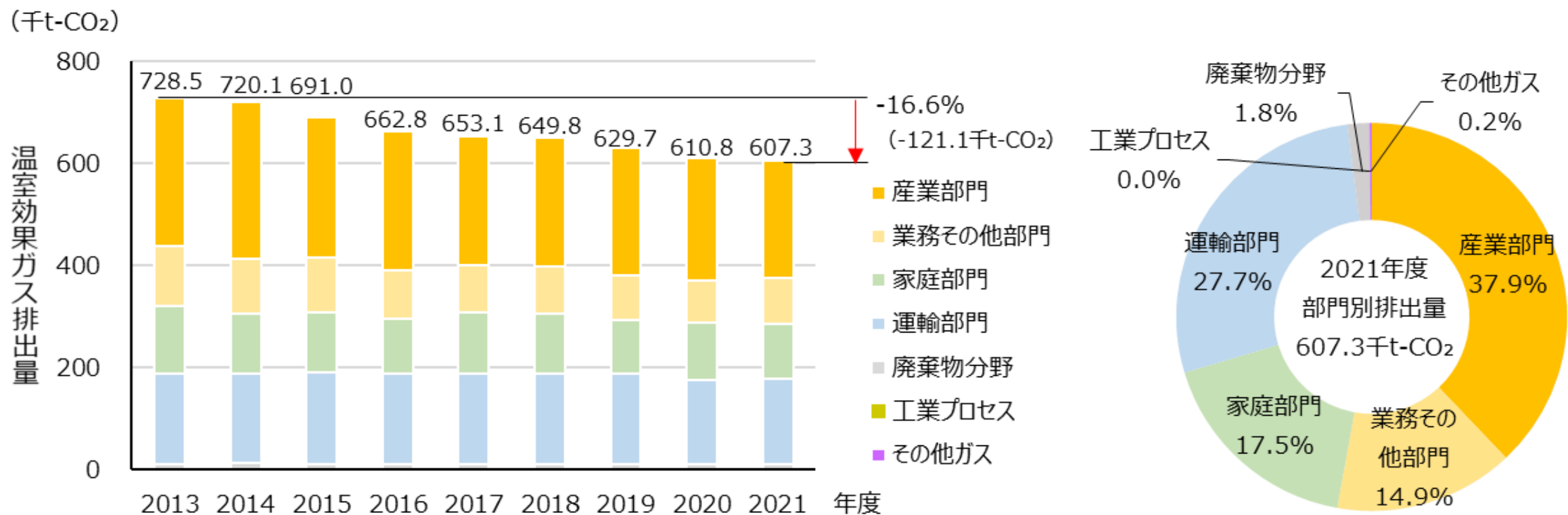
章	項目	内容
第1章	計画の基本的事項	<ul style="list-style-type: none"> 計画策定の背景、計画の目的、計画の期間、計画の推進主体、計画の位置づけ、計画の構成（区域施策編・事務事業編・地域適応計画の内包）
第2章	環境行政を取り巻く社会動向	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な開発目標（SDGs）、地球環境（脱炭素社会）、循環型社会、生物多様性、金融のグリーン化、環境教育・環境情報
第3章	環境の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 八潮市の地域特性、八潮市の環境の現状と課題
第4章	望ましい環境像と環境目標	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい環境像、環境目標、施策体系
第5章	目標達成のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境分野、自然環境分野、生活環境分野、資源循環分野、環境活動分野
第6章	八潮市地球温暖化対策実行計画 （区域施策編）	<ul style="list-style-type: none"> 計画の基本的事項、地球温暖化の現状、温室効果ガス排出量の現状、温室効果ガス排出量の将来推計、温室効果ガス排出量の削減目標、目標達成に向けた取組、脱炭素促進区域
第7章	八潮市地球温暖化対策実行計画 （事務事業編）	<ul style="list-style-type: none"> 計画の基本的事項、これまでの取組の進捗と評価、温室効果ガスの削減目標、目標達成に向けた取組
第8章	八潮市気候変動適応計画	<ul style="list-style-type: none"> 計画の基本的事項、気候変動による影響の評価、適応策の推進
第9章	計画の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各主体の役割、推進体制、進行管理
資料編		<ul style="list-style-type: none"> 計画策定経緯、諮問・答申、用語解説 等

8. 目標値・指標の現状

環境目標	指標	現行計画の策定時の状況	R4の実績	目標値
地球環境分野	公共施設における省エネ機器の導入か所	累積5か所(H26)	86か所	累積10か所(R7)
	市内における太陽光発電設備の発電容量(累計)	6,732kW(H25)	16,383kW	20,457kW(R7)
	市の事務・事業に伴い排出する温室効果ガス排出量	4,637t-CO ₂ (H26)	5,519t-CO ₂	4,426t-CO ₂ (R7)
自然環境分野	市民一人当たりの都市公園面積	1.96m ² /人(H26)	2.10m ² /人	2.6m ² /人(R7)
	公共施設等における屋上緑化	1か所(H26)	1か所	5か所(R7)
	認定農業者数	27人(H26)	50人	30人(R7)
生活環境分野	公共下水道の整備普及率	74.7%(H26)	83.4%(79.8%)	87%(R7)
	水洗化率	88.6%(H26)	92.1%	96%(R7)
	有害化学物質に係る情報提供回数	1回/年(H26)	1回/年	1回/年(継続)
資源循環分野	資源回収団体の登録数	80団体(H26)	113団体	90団体(R7)
	1人1日のごみ排出量(家庭系可燃ごみ)	570g(H26)	529.3g	520g(R7)
	資源化率(リサイクルプラザ)	75.6%(H26)	85.91%	85%(R7)
	資源化率(可燃ごみ含む)	12%(H26)	15.1%	20%(R7)
環境活動分野	環境に関する講座等の実施回数	1回/年(H26)	0回/年	12回/年(R7)
	文化財愛護啓発活動の充実に係る各種講座の開催	23回/年(H26)	38回/年	23回/年(継続)

9. 温室効果ガス排出量の現状

- 現状の温室効果ガス排出量において、2021年度の温室効果ガス排出量は2013年度比で16.6%（121.1千t-CO₂）削減となっています。
- 部門別の排出量では、産業部門の排出量が最も多く、全体の37.9%を占めています。



10. 温室効果ガス削減目標・再エネ導入目標

- ▶ 脱炭素社会を実現するためには、省エネ対策や再エネ導入等について継続した取組に加え、さらなる削減努力が必要となります。
- ▶ 推計結果をもとに削減目標値及び目標を設定しています。

2030 年度における削減目標

八潮市からの温室効果ガス排出量を
2030 年度までに平成 25 年度（2013 年度）比
46%以上削減することを目指します

温室効果ガス排出量の長期目標

2050 年までに
ゼロカーボンシティの実現を目指します

2030 年度再生可能エネルギー導入目標

421.8TJ
(発電電力量 117,165.6MWh、設備容量 87.0MW)
約 17,400 世帯分の導入目標とします

